

タウンミーティング記録 未来へつなごうふじみ野市

日 時 令和5年5月27日(土)午後2時～3時30分
場 所 滝自治会集会所（滝自治会）
参加者 34人



主な意見等

参加者 今回は3つの問題について、意見を言いたいと思います。

1つ目は、スポーツの問題です。年をとっても健康を維持できるようペタンクというスポーツをしています。残念ながら高齢化が進み、維持が難しい状況です。行政が重視して保護していかないと自立した運営が難しいと思います。

2つ目は、安心して暮らせる市であってほしいということです。コロナの感染状況は減りつつあるが、もし罹った際に見てもらえる医者を確保することが行政の責任だと思います。それが市民の安心間に繋がると思います。

3つ目は、自治会の問題です。施政方針にも「絆を深く結び直す」とありましたが、絆を深く結びつけるのがまちづくりの基本だと思います。近隣のみなさんと仲良くできる道筋、機会を作るのは自治会の役割です。隣近所が仲良くなり、信頼しあっていざという時助け合うことができるまちづくりをしてほしいです。

市長 まず、スポーツの問題についてですが、高齢者に限らず、色々な団体が減少傾向にあるのが現状です。体を動かすというのは大事で、介護

予防という観点からいっても、スポーツは有効だと思います。介護を提供するのではなく介護を予防することに力を入れており、ぴんしゃん体操なども進めています。スポーツ活動の充実と取り組んでいる団体の支援も考えていきたいと思っています。

それから、安心して暮らせるまちづくりということで、災害対策に色々取り組んでおり、イオンタウンの前に災害備蓄品の倉庫を作りました。イオンタウンとも協定を結んでおり、災害時に駐車場を使わせてもらうことができます。また、毎年11月に実施している総合防災訓練では、ブラインド訓練といって、事前にシナリオを作らない、何が起こるか分からない状況の訓練も実施もしています。

医療体制については、当市においては、幸いにしてコロナの患者さんが受け入れられないということはありませんでした。近隣の医療機関とも輪番制で対応が可能な体制は構築しています。コロナは落ち着いてきましたが、インフルエンザが流行ってきているようなので、お気をつけいただきたいと思っています。医療体制の確保については、医師会とも定期的にお話をしています。大規模病院との連携の強化に尽くしていきたいと考えています。

最後に自治会のお話ですが、今のまちづくりの中で一番重要なことは、地域のつながりを強化していくことだと思います。コロナで地域の行事がなかなか実施できない中、去年ごろから色々工夫をしながら地域の行事を実施してもらっています。自治会に入っていない人をもっと巻き込むために使っていただく補助金も新たに創設しました。行政として、地域の絆をもっと強くするような取り組みを頑張りたいと思っています。

参加者 ごみの問題についてです。私が利用するごみ集積所は、約30軒が置くため量が多く、カラスの被害に遭ってしまいます。移設するにも場所がない状況です。カラスを駆除することはできないのでしょうか。

市 長 カラスの駆除はできません。

参加者 5年とか10年かけて、カラスを駆除できるような方策を考えてほしいです。

市 長 昔ながらの地区は、しっかりとしたごみ集積所を作っているわけではないので大変だと思います。地域によっては、ローテーションでごみ集積所の場所を回しているところもあるようです。カラスに狙われているのは、その集積所だけなののでしょうか。もし、約30軒のお宅がごみを出していて、量が多いことがカラスに狙われる原因となっているのであれば、ごみ集積所を分散するのはいかがでしょうか。

参加者 以前、約半数の家庭のごみ集積所を市有地の子ども広場に移すのはどうか提案したところ、集積所が遠くなるのは困ると猛反対に合ってしまった。

市 長 大原や北野といった道路幅が狭くスペースがない地域では、半年毎に場所を移すとか、汚れてしまったときは皆さんで掃除するとか、色々な工夫されているということはお伝えしておきたいです。

参加者 法律的にカラスを殺すのはダメなののでしょうか。

市 長 カラスの捕獲や駆除は法律で禁止されています。カラスの被害に遭わないような工夫をしてもらいたいと思います。

参加者 私が出すごみ集積所はカラスの被害に遭っていませんが、隣の集積所はカラスの被害に遭っているようです。ごみの出し方、包み方の問題ではないのでしょうか。ネットの掛け方やごみ袋の厚みなどが関係しているように思います。

市 長 やはり30軒となると量が多すぎるため、分散が必要ではないでしょうか。地域の皆様でお話し合いをしていただければと思います。その他にも各ご家庭で、ごみ袋から臭いが漏れないようにするといった対策等も取っていただければと思います。

参加者 緑地公園のトイレについてです。トイレの前に休憩所があり、そこに若い人がいるとお年寄りがトイレに入りづらいです。また、木が鬱蒼としているので、剪定をしてもっと開けた感じにしていただけると防犯上も好ましいと思います。

それから新河岸川沿いの遊歩道ですが、アスファルトにさせていただいて非常に歩きやすくありがたいのですが、誤って車が入ってくることがあります。ポールを立てて、通行止めにした方がいいのではないのでしょうか。

市 長 現場を確認させていただきます。川越県土整備事務所にも確認が必要かもしれません。

参加者 防災関係についてです。避難所で誰が何の役割を担っているのか識別ができません。リーダーなどを識別できるように、ビブスのようなものに対して補助をしてもらえないのでしょうか。

また、今年の3月に地域防災計画を改定したと思いますが、どこをどう改定したのかわかりません。改定の新旧が分かるものを出してもらえないのでしょうか。

最後にLGBTについて、避難所でどのように扱うのか等、市としてはどのような見解なのでしょう。

市 長 まず、役割を認識できるビブスのようなものですが、役割を識別できるのは、避難所を巡回する職員にとっても非常に有効なので考えていきたいと思います。行政から自治組織に対し配付する方が効果的かもしれません。

次に地域防災計画ですが、改定内容が法令の改正に伴うものなので非常にわかりづらいと思います。今回の改定は、皆さんに直接関係があるわけではないのですが、危機管理防災課を通して勉強会を開くあるいは変更点をまとめた用紙を配るなど知っていただく機会は必要であり今後の課題だと理解しました。

最後にLGBTについてですが、災害時に限らず、今すぐに対応するのは困難な状況です。多様性の理解を進める必要性はあると認識していますが、まだまだ時間を要する課題だと思います。